

「浜松自主防災隊集合訓練」で広報活動



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、12月4日（日）に新天竜川橋北側運動公園グラウンド（浜松市東区）で実施された「第36回自主防災隊集合訓練」を支援した。これは、地域住民が災害時には一丸となって自主的に防災活動に取り組み大規模な防災訓練であり、地元の中高生800名を含んだ「自主防災隊」のほか、浜松東警察署、浜松市東消防署、中部電力、静岡県西部危機管理局、浜松市危機管理課、浜松市東区役所、自衛隊浜松基地等の関係諸機関10団体が参加した。訓練は地元住民等2200人が参加し、午前9時の地震発生の想定に基づき「避難及び誘導」「バケツリレー」「可搬ポンプによる放水訓練」「救援物資の受け渡し」が実施された。

静岡地本浜北募集案内所は、中高生の「放水体験ゾーン」に広報ブースを開設し、非常時に喫食する携行糧食や熊本地震及び鬼怒川氾濫時の災害派遣写真パネル等を展示して災害時の厳しさを実感してもらうとともに、小型トラックの展示説明、迷彩服試着体験コーナーの展開を行い、自衛隊に対する理解を深め、親近感を持てるような広報活動を実施した。

広報ブースには各訓練の合間に多くの訓練参加者が訪れ、災害派遣に関する隊員の説明にじっと耳を傾けたり、携行糧食について質問する等、自衛隊に対する関心の高さがうかがわれた。

静岡地本は、今後もこのような防災イベントを積極的に支援し、自衛隊の活動への理解促進を図るとともに、地域の防災意識の向上や自衛隊への志望者獲得に向け努力していく。

科学技術高校の学生浜松基地を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、12月9日（金）、静岡県立科学技術高校（静岡市葵区）電気工学科の1年生及び教諭42名の「航空自衛隊浜松基地見学」に同行した。見学は、基地の資料館で自衛隊の概要を説明したDVD視聴から始まり、資料館内を見学、その後航空機の見学や体験喫食を行った。航空機見学では、F-15戦闘機やF-2支援戦闘機、T-4練習機といった航空自衛隊で活躍する航空機のほか、宮崎県の新田原基地航空祭へ向かうため来基したブルーインパルスを見ることができ、航空自衛隊を代表する機体との遭遇に学生は興奮した様子であった。

また、昼の体験喫食では浜松基地オリジナルの「家康君カレー」を喫食し、自衛隊の食事のボリュームと美味しさに皆が驚いていた。自衛隊を間近で見学した学生たちは、普段目にするのが少ない自衛隊の仕事内容に高い関心を持った様子で、航空自衛隊における日頃の訓練の様子や、実運用されている航空機の状態等について積極的に質問をしていた。

静岡地本は、今後も学生の部隊見学等を通じて自衛隊の任務や魅力を正しく伝えるとともに、熱意ある志望者の獲得に向け邁進していく。